

二〇〇七年九月二六日（仁徳天皇陵・大仙公園）

謎めきぬ古墳のいはれ小鳥来る	宏
岩走る曲水の音涼新た	虎
墨絵めく金剛の嶺々雁の秋	〃
色変えぬ松が影なす御陵道	菜
露の歌碑犬養節の聞こへさふ	々
就中御陵の塘のもみじ濃し	〃
竹林の葉擦れおのずと秋の声	〃
水澄める仁徳陵の濠巡る	まさる
鎮もれる仁徳御陵の秋を聴く	〃
出土せし愁思顔なる埴輪かな	わかば
陵に向く陪塚や曼珠沙華	〃
夕さりて平城宮址虫の声	けんいち
身にぞ入む相聞の歌碑陵に	ひかり
	はく子

吟行句会みのる選

二〇〇七年九月二六日（仁徳天皇陵・大仙公園）